

介護とは… 利用者さまのやり残した夢を叶えるための 支援に全力で向き合う仕事

介護福祉士・認知症ケア専門士
中村 寿史 さん
(金沢春日ケアセンター介護主任・1998年入職)



「豊かさ」の指標とは何でしょうか。地域別の住みやすさランキングが時々紹介されますが、普通にご自宅などで生活されている方の住みやすさと、高齢者施設に入所されている方の住みやすさでは、豊かさの指標が全く異なるものになると思います。施設では、生きることの安全・安心を得ることが出来ますが、体の機能が少しずつ衰えていく中で、家族や近所の方、仲の良い友達に代わって、馴染みのない人たちとの新しい生活が始まります。様々な場面で支援が必要な利用者さまにとって、このような状況は不安以外の何ものでもありません。施設生活において、利用される方々が心豊かに過ごしていただくために、私たち介護の専門職が必要なのだと思います。

☑ **利用者さまに合った適切な介護のために 専門的な知識と技術は不可欠**

介護の仕事の一つは、生きていく上で必要な「食べる」「出す」「清潔を保つ」ことの援助です。誰もが日常生活で経験している「食事・排泄・入浴」であり、特別な資格が無くても援助ができます。しかしながら在宅生活が困難になった高齢者の多くは、重い病気や身体的不都合があるため、専門的な知識や技術をもっていないと本人に合った適切な援助を行うことができません。私たち介護職は、利用者さまが安心してケアを受けられるよう、確かな技術と専門知識を身につけることが必要不可欠です。



☑ **寄り添いながら「生きる意味」を一緒に考えること—それが心の介護**

私たち介護の専門職が提供するケアは「食事・排泄・入浴」以外にも、利用者さまが心豊かな生活をおくることが出来るよう、様々な支援があります。その中のひとつが「心の介護」です。その方の思いに寄り添った介護を提供することこそが、私たち介護職の本分とするところです。今まで一人で出来ていたことが出来なくなり、何をすることも介助が必要になった時、「生きていても仕方ない」「早く死にたい」と言われる方がいます。生きる意味「生きがい」を一緒になって考え、見つけること—そこに介護職としてのやりがいがあると思います。老いても誰もが夢を持っています。その夢の実現や、人生でやり残したことを叶えるためにできる限りの支援を行うこと。こうした心の介護を通じて、再び輝きを取り戻し、最高の笑顔を見せてくれるお年寄りの姿が、私たちの元気の源です。

介護未経験での入職 まず、ベッドメイキングの猛練習

私が最初に身に付けた介護技術は「ベッドメイキング」です。入職当時、介護や実習経験のなかった私にとって、利用者さまとのコミュニケーションはとても難しく、身体介護も経験を積まなければ身につかないと感じていました。シーツの交換を含むベッドメイキングは、1人でも練習ができるため、当時一番上手だった先輩に教えて頂き、繰り返し練習しました。



「あんた上手やね」「もったいなくて寝られん」の言葉が支えに

地味に思われるかもしれませんが、ある時利用者さまのひとりに「あんた上手や」「こんなきれいにしてもろて、もったいなくて寝られん」と褒めて頂き、経験のない自分でも一番になれる介護技術がこれだと思い、さらに磨きをかけました。今ではスピードと仕上がりの美しさは一番だと自負しています。「誰も見ていないところで美しい仕事をする事」が自分のモットーですが、利用者さまはちゃんと見ているんですね。やはり褒められると嬉しいです。長年介護職を続けてこられた理由の一つは、新人職員だった頃に頂いた“勲章”「利用者さまからの最高の誉め言葉」が今も胸にあるからだと思います。



介護の仕事をしてきたもう一つの理由は、たくさんの認知症の方々との出会いです。私の最初の配属先は認知症の専門棟でした。「伝えたいことが理解されない」「本人がどうしたいのかが分からない」中で、時折感じられる利用者さまとの温かい感情の触れ合いが、今の自分が考える認知症ケアの原点になっています。言葉で伝わらなければ感情で伝え合えればいいというのが今の考えです。話せば長くなりますが、認知症の方々からたくさんのことを学ばせていただき、これからも学んでいきたいと思っています。

